

2回目バルク乳検査の成績について



令和3年9～11月に実施した1回目のバルク乳検査（酪農生産性向上対策事業）では、採材等にご協力頂きありがとうございました。

管内酪農家42戸(45検体)で実施した検査の集計結果をお知らせします。

陽性 31%（参考：昨年2回目 43%）

Dランク 40%（参考：昨年2回目 39%）

黄色ブドウ球菌(SA)

伝染性乳房炎の原因菌

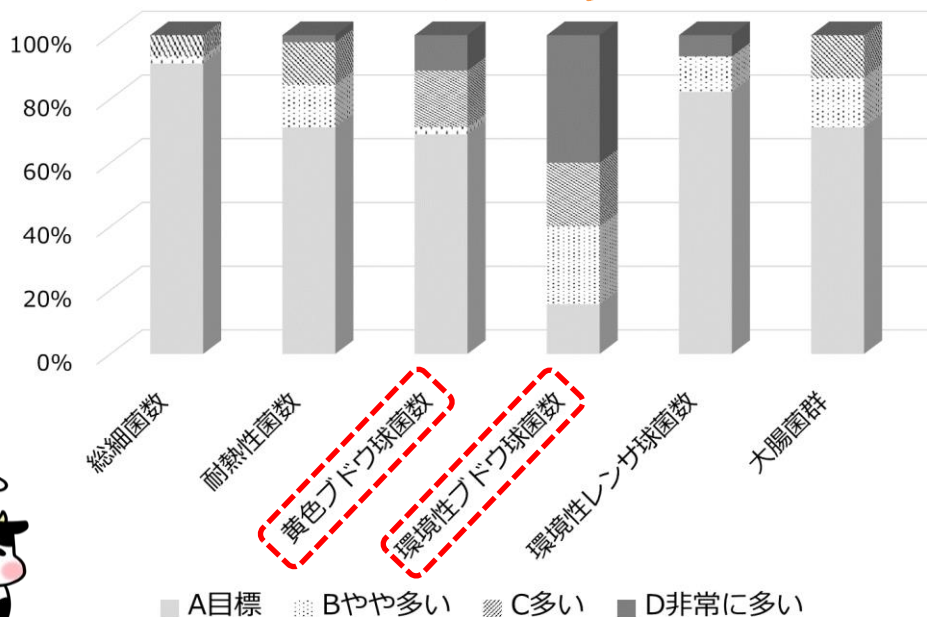
対策：SA排菌牛の淘汰や隔離、
最後搾乳、乾乳期治療の
徹底等

環境性ブドウ球菌

環境性乳房炎の原因菌

対策：乳頭清拭の適切な実施
搾乳手順の再確認
搾乳機器洗浄の再確認
牛床を乾燥させる等

各細菌のランク別農家の割合



※ 裏面のバルク乳細菌検査家畜保健衛生所統一判定基準参照

◎無乳性レンサ球菌、マイコプラズマ、BVDウイルス遺伝子は全検体で検出されませんでした。

バルク乳から黄色ブドウ球菌が検出されたり、体細胞数が高いなどの問題があった場合は、個体乳の検査による感染牛の特定や搾乳立会等による問題点の検討も可能ですので、家畜保健衛生所までお問い合わせください。

(参 考)

バルク乳細菌検査家畜保健衛生所統一判定基準

		判定基準			
		A	B	C	D
		目標	やや多い	多い	非常に多い
生菌数	個/ml	3,000 未満	～5,000	～10,000	10,000 以上
耐熱性菌		50 未満	～150	～500	500 以上
黄色ブドウ球菌		0	～100	～200	200 以上
無乳性レンサ球菌		0	～100	～200	200 以上
マイコプラズマ ※		-	+		
環境性ブドウ球菌		100 未満	～200	～400	400 以上
環境性レンサ球菌		700 未満	～1,200	～2,000	2,000 以上
大腸菌群		0	～100	～400	400 以上
その他					

※酪農生産性向上事業実施要領に係るバルク乳スクリーニング検査マニュアルから抜粋